

こども園は60人、幼稚園は20人です。臨時職員は、この4月の数字では296人です。

Q 市長は将来的には350人の職員体制というが、いつごろを目標にしているのか。

A 市長 目標年次を明確には定めませんが、お示しさせていただいてます。採用を抑制して、限りなく350人に近づけていこうという考えです。

Q 将来、こども園等は、指定管理者制度を考えているのか。

A 市長 考えていかざるを得ないと思っています。

Q 必要であれば、保育士を採用して、正規の職員にするというところは、行政の任務だと思うがどうか。

A 保健福祉部長 指定管理者を視野に入れるということですので、早目に検討しなければなりませんと思っています。

Q 保育士においては、臨時のほうが正規より

多いという自治体は多いのか。

A 市長 これが理想的な形とは思っていませんが、やはり将来を見込んで、すべての保育士を正規の職員にするという事について、一定の抑制をかけているという現状です。

Q 物件費の内訳は。財政課長 主なものは、電気、水道などの光熱水費、施設の維持管理に係る委託料、臨時職員の賃金、あるいは、パソコンのリース料です。

Q 近隣市町と比較して、物件費の割合はどうか。

A 財政課長 平成23年度決算額に対する構成比では、山武市が14.0%、東金市が11.9%、大網白里町が11.7%、九十九里町が14.0%、横芝光町が11.4%という状況です。

Q よく精査して、処分できるものは、処分していくべきだと思うがどうか。

A 市長 そういったことも含めて、これらの資産管理をしていくということですが、

Q 社会保障費の内訳は。財政課長 主なものは、児童手当、生活保護費、子ども医療費、障害者自立支援訓練等給付費です。

Q 年平均、どのくらいずつ伸びているのか。

A 財政課長 平成22年度は、決算ベースで28億7千万円、前年度と比較しますと、28.1%増。平成23年度は、決算ベースで31億1千万円、前年度と比較しまして、8.6%の増です。平成24年度は、当初予算ベースで30億7千万円、前年度の決算と比較すると、1.3%の減という状況です。

Q 将来的には、社会保障費が減額になるという事はあり得ないのか。

A 財政課長 一般的には社会保障費は伸びていくのではないかと見込んでいます。

Q 増加傾向にある社会保障費を削減していくためにも、疾病予防対策は、努力すれば縮減できるのではないかとと思うがどうか。

A 保健福祉部長 伸び率については、まさしく高齢化の進展と、国の制度改正等が影響しているだろうと判断されています。これを削減していくためにできることは、医療費等の削減です。市民の皆さんで総力を挙げていただけて、予防事業を推進して、市民の健康を確保すべきものだと思います。

Q 副市長はどう考えるか。

A 副市長 先ほど議員からの御指摘もありましたように、予防医療をある程度充実させて、健康な高齢者を増やしていくということ、福祉や医療費を抑えていくということも必要だと思います。

政策研究会 関連質問



高橋 忠 議員

●公共交通について

Q 現在、試験運行中の基幹バス、乗合タクシーは平成25年度より本格運行になるのか。

A 総務部長 その方向に進めたいと考えています。

Q 試験運行の実施状況を、市としてどのように総括しているのか。

A 総務部長 山武市公共交通活性化協議会の中で、最終的には実証実験運行の総括も含め、

議論・審議をしていただきます。

Q 旧山武地区で実施されていた巡回バスは、利用者にとって公平性からも理想的なバスだったと思うがどうか。

A 総務部長 巡回バスではカバーしきれなかったということもあり、機会の均等、面的な公共交通を利用いただくという点で、今回乗り合いタクシーという方法で試験運行を実施しています。市内を三つのエリアに区分し取り組んでいます。

Q 乗り合いタクシーは一部の公共施設への利用以外、エリア外への移動はできないが、地域事情により商店や医療施設に偏在があり、公平性に問題があると感じるがどうか。

A 総務部長 運行の効率性、地域の中で日常生活ができる範囲、民間の一般タクシーとのすみわけ等、利用の公平性、機会均等などはある程度保たれていると考えます。



市内を走る基幹バス (日向駅停留所)